岩手県夏油川扇状地の火山灰縦土壤の理化学性

夏油川扇状地（金ヶ崎段丘）の排水良好地帯に位置する六原畑場（六原町農学校）は約300haの面積を有し、広く火山灰土壌に覆われている。今回は六原畑場の火山灰縦土壤の理化学性を未耕地と対比しながら検討した結果について報告する。

耕地土壤の物理性は、大型機械使用による圧壊の影響が大きく、未耕地よりも細密度、固相率、比重が増大した。さらに集約性的粗地では未耕地との混合によって粒径組成のバランツが現著であり、三相分布もしくは溝堆土壤に近い値を示し、耕地利用の違いは土壤三相分布および堆積度に反映していた。

耕地土壤の化学性は集約度が低い地域改良が進み未耕地と大きく異なる性質を示した。未耕地では塩基飽和度が高く、主として鉱物質がALセミキュライトであるため強酸性を呈するが、耕地土壤では集約度の高い地域改良塩基飽和度が高く、それに伴ってpH(H2O)も増大した。

小野剛志、庄子貞雄（東北大学農学部）

中国地方の火山灰縦土壤について（第9報）
三瓶山火山灰縦土壤の粘土鉱物について（その3）

松本薫、本名俊正、高田秀方（鳥取大学農学部）

粘土鉱物は粗さからアフロフェン、ALセミキュライト、オキリオン鉱物およびギブサイトであったが、山麓地帯および広島県北部の火山灰縦土壤に見られ、未耕地が集約度が低いことから、火山灰縦土壤の粘土鉱物組成について検討した。

試料と実験方法：試料は鳥取県南部の横田町、木次町および赤津町にわたる地域から、固体とと考えられる未耕地の3箇所、それぞれ数層を数層の土壤を採取し、これら各試料の2mm以下のフライショニングについて、主としてX線回折および示差熱分析で粘土鉱物を同定した。

結果：(1)供試試料の抗力比は平均2.97で、三瓶山火山灰縦土壤の8.60、広島県北東部の1.47のほぼ中間の値を示した。
(2)その主要粘土鉱物は、広島県北東部に分布する火山